

まねっこ できそう

避難場所の整備(テントなど)

一次避難場所で雨風をしのげるための環境を整備する。ブルーシートのテント、ポップアップ式のテント、ビニールハウスなどを使い環境整備を行う。

まねっこ できそう

二次避難訓練

一次避難場所から二次避難所まで避難する。沿岸部と中山間部などの地区をまたいだ協力が必要。二次避難道は整備されていないことが多いので、訓練後に整備についての協議を行うと効果的。

まねっこ できそう

避難者受け入れ訓練

避難者を受け入れる訓練を行う。車両で避難する住民も想定されることから、車両を安全な場所に効率よく誘導する訓練も必要。

まねっこ できそう

防災器具の開発

避難や避難生活を補助する器具を開発する。例えば、漁網や柔道帯を使った搬送器具や、孟宗竹を使った杖、タオルで作った防災頭巾、漁船の廃オイル缶を使った簡易トイレなどを開発している。

まねっこ できそう

事前復興計画の協議

被災後の復興計画を事前に協議する。高規格道路の建設や施設の高台移転など大規模なインフラ整備を行う際に協議すると、現実的な土地利用計画を含めた効果的な議論ができる。

まねっこ できそう

臨時情報対策の協議

臨時情報とは、南海トラフ地震が発生する確率が高まったことを示す災害情報で、臨時情報が気象庁から発表された時の地区対応について協議する。要配慮者への対策を検討すると効果的。

まねっこ できそう

臨時情報対策の訓練

臨時情報の発表時の地区対応について訓練する。例えば、高台や高台近くの施設に事前避難する訓練を実施する。臨時情報の発表時にはインフラを活用できることに留意すると効果的。

まねっこ できそう

お誘い訓練

避難訓練に参加したことがない要配慮者を対象に、訓練参加のサポートを行う。中学生や高校生の学生が訓練の勧誘をすると効果的。

まねっこ できそう

防災協力農地・空き家の利活用

避難空間や災害復旧用の資材置場として利用するために防災協力農地や空き家を確保する。協力の承諾が取れた場合には、協力することを示すステッカーを入り口に貼ると効果的。

まねっこ できそう

災害時協力井戸の利活用

災害時に活用できる井戸を確保する。協力の承諾が取れた場合には、協力することを示すステッカーを道沿いに貼ると効果的。

まねっこ できそう

避難カードの作成

避難所での混雑をさけるために、避難所で必要になる情報を事前にカードにまとめる。避難カードを避難促進のためのツールとして活用することもできる。

まねっこ できそう

おためし避難

避難所となる場所へおためしで避難して、どのような場所か事前に知っておく訓練。避難先となる場所のことを知ることで、避難へのためらいがなくなり、素早い避難に結びつく。受け入れる側の職員も、どのような住民が避難してくるかを事前に知っておくことで、周到な準備ができる。

まねっこ できそう

避難タワー引き上げ訓練

ガスを吹き込むことで膨らむ簡易エアマットなどで、避難者をタワーの上まで引き上げる訓練。何十段もある階段を上ることが難しい人を支援する上で効果的。

まねっこ できそう

タワー降下訓練

津波避難タワーに備え付けられた緩降機やはしごを使って、津波避難タワーを降下する。津波避難タワーの階段やスロープが津波や地震で使えなくなったことを想定した訓練。

まねっこ できそう

女性の視点からの取り組み

女性の視点から避難所整備や防火活動などについて協議する。婦人会や漁協・農協の女性部など既存の女性組織を活用して議論すると効果的。

まねっこ できそう

感染症を意識した防災対策

感染症予防のために必要な避難所整備について協議する。マスクやアルコールなどの備蓄や、傷病者を隔離するスペースの確保などを検討する。車両避難や自宅の2階など分散避難も検討する。



「まねっこ防災」チェックシート

地区防災計画のポイントは、
良い事例や工夫を「まねっこ」することです

制作：黒潮町・京都大学 地区防災計画プロジェクト
監修：矢守克也・杉山高志(京都大学)

「まねっこ」できそうな活動に チェックをつけてみましょう!



地区独自訓練(昼)

年に2回の町全体の斉訓練とは別の日に、昼間に地区独自の避難訓練を行う。特に斉訓練に参加できない住民に参加を促すと効果的。

地区独自訓練(夜)

年に2回の町全体の斉訓練とは別の日に、夜間に地区独自の避難訓練を行う。特に暗い場所のチェックなどを一緒にすると効果的。

要配慮者支援の避難訓練

避難の際に支援が必要な要配慮者を、避難場所や避難所まで搬送する避難訓練を行う。車椅子やストレッチャー、おんぶひもやリヤカーなど様々な機具を事前に検討すると避難の選択肢を増やせる。

避難道やタワーの清掃

避難道や津波避難タワーの清掃を行う。地区の一斉清掃の際に行ってもよいが、定期的に地区で清掃するルールを作ると一層安全な避難道を確保できる。

防災資機材の点検

防災倉庫の備蓄を点検する。内容物の補填だけではなく、消費期限のある物資を確かめたり、発電機などの資機材の老朽化を防ぐために定期的に試運転をしたりすると効果的。

炊き出し訓練

非常時の食糧を作る。地区で独自に炊き出し料理を考案すると大いに盛り上がるが、消費期限が近づいた役場の備蓄食料を用いて炊き出しをすると簡易に訓練できる。

地区独自の要配慮者リストの作成

地区で支援すべき要配慮者の一覧を作る。行政がまとめた避難行動要支援者名簿や要援護者台帳とは別に、地区が独自に設けた基準で災害時に支援が必要な住民のリストを作成する。

屋内避難訓練(玄関まで)

高台の避難場所・避難所まで移動が難しい住民を対象に、自身が動ける範囲での避難訓練として、自宅の玄関先まで移動する。訓練の際にチェックシートを用いて、訓練の反省をすると効果的。

屋内避難訓練(2Fまで)

高台の避難場所・避難所まで移動が難しい住民を対象に、自身が動ける範囲での避難訓練として、自宅の2階まで移動する。訓練の際にチェックシートを用いて、訓練の反省をすると効果的。

訓練参加者のカウント方法の工夫

高台の避難場所・避難所に到達した住民のみを訓練参加者としてカウントするのではなく、玄関先や2階までの屋内避難訓練を実施した住民も訓練参加者としてカウントする。訓練参加を促進できる。

参加型防災勉強会

防災に関する座学の勉強会を開催する。高齢者の集い、児童会、婦人会、職場研修会など既存の集会和同時開催すると参加者を確保しやすい。例えば、クロスロードや起震車、防災クイズなどを用いる。

防災かわら版の作成

地区で実施した防災活動の予定やその実施記録を新聞形式でまとめて配布する。都合が悪くて訓練に参加できなかった住民に防災活動を知ってもらえる。

防災ポスターの掲示

防災の基本情報や地域ルールをポスターにまとめ地区内に掲示する。小学生や中学生に協力してもらいポスターを作ると効果的。

訪問式の家具固定

地震動による家具転倒を防ぐ試み。専用の器具で家具を固定するだけではなく、不要な家具を移動・撤去できる。自主防災組織やホームセンター、中学生などがチームを作って、戸別に訪問して家具固定すると効果的。黒潮町には家具転倒防止を推進する補助金制度が存在する。

ブロック塀撤去

地震動によるブロック塀転倒を防ぐ試み。本庁舎と佐賀支所に一台ずつ、ブロック塀の鉄筋を確かめる器具があるので、それで地区単位でブロック塀の安全性を確認すると効果的。補助金制度も存在する。

車両避難訓練

車両を用いて避難訓練を行う。渋滞を防ぐために、近隣住民による乗り合いや歩行困難で車両避難の必要性が高い住民の抽出など地域ルールを事前に検討すると効果的。

家屋の耐震化

地震動による家屋の倒壊を防ぐ試み。耐震化の補助金制度があるものの限度額があるため、補助金内での部分耐震を検討すると耐震化を進めやすい。

不要品の備蓄

家庭で不要になった毛布や鍋などを防災倉庫に備蓄する。季節の変わり目に不用品の回収を呼びかけると集めやすい。行政施設の耐震化や高台移転をする際に出る不用品も活用すると効果的。

防災費の収集

地区内で部落費とは別に防災費も収集する。行政から数年に一度交付される補助金では水や食糧といった消耗品は購入できないので、地区独自で予算を確保する必要がある。

個人ボックスの設置

避難場所・避難所の防災倉庫の中に、避難生活に必要な物資を非常持出袋やボックスに入れてを戸別に備蓄する。備蓄物資の入れ替えを定期的に設定すると、気候に応じた必要物資の入れ替えができる。

避難場所間の連絡訓練

避難場所・避難所の間で、トランシーバーや衛星電話、双眼鏡、スマートフォンなどを使い連絡を取り合う。複数の連絡手段で訓練すると効果的。

逃げトレ訓練

津波避難訓練用アプリ「逃げトレ」を用いて避難訓練を行う。スマートフォンの使い方に慣れた若年住民や学生が、高齢者や障がい者と一緒に訓練するきっかけになる。

観光客を誘導する避難訓練

観光客を安全な場所に誘導しながら避難訓練を行う。観光客が車両での避難を希望する場合もあるので、避難手段を徒歩に限定しない計画を立てると効果的。

外国籍住民との避難訓練

外国籍の住民と一緒に避難訓練を行う。言語の壁のために、行政からの訓練情報が外国籍の住民に伝わっていない場合が多いので、訓練周知の段階から工夫する必要がある。

訓練参加者の分析

避難訓練に参加した住民を記録し、訓練形式の課題を検討する。避難場所・避難所に到達した住民だけではなく、玄関先や自宅の2階まで避難した住民も含めて分析すると効果的。

防災マップの作成

地区の危険な場所や災害のリスクを示した防災マップを作成する。小学生や中学生らと一緒に防災マップを作ると効果的。

消火訓練

消火器やホースを使った消火訓練を行う。一斉避難訓練や一斉清掃の後に実施すると、参加者が集まりやすく効果的。

避難所運営マニュアルの作成

避難所運営のためのマニュアルを作成する。マニュアルを凶面上で作成するだけではなく、避難所運営に必要な備蓄物資も検討する。

避難所運営マニュアルの改定

避難所運営のためのマニュアルを改定する。マニュアルを実質的に活用できるものにするために、避難所運営訓練やHUG訓練を用いた防災学習会を重ね、マニュアルを課題を修正する。

避難所運営訓練

避難所に備蓄されている用具を使いながら、避難所運営訓練を行う。運営者役の住民だけではなく、避難者役の住民も十分に確保して訓練すると、災害時の課題を確認でき効果的。